

【NEWS RELEASE】

2019年8月21日

各 位

株式会社三井住友銀行

株式会社フリーデンの「SDGs推進私募債」買受けについて

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、株式会社フリーデン（代表取締役社長：森 延孝）の発行する「SDGs推進私募債」（1）を買受けいたしました。これは「SDGs推進私募債」の初めての成約事例となります。

「SDGs推進私募債」は、私募債買受け時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDGs（2）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等をご提供する商品です。

今回対象となりました、株式会社フリーデンについては、以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

育種・養豚から食肉加工・販売・飲食店経営まで、自社で完結するサプライチェーン構築による食品等の廃棄ロスの削減

目標 12： つくる責任 つかう責任	ターゲット 12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人あたりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。
	ターゲット 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組に従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。
目標 2： 飢餓を ゼロに	ターゲット 2.4 2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する。

地域循環型農業における豚の排泄物の適正な浄化処理・堆肥化による周辺地域の水質悪化防止、飼料用米の栽培委託を通じた近隣農家の収入向上への貢献

目標 6： 安全な水と トイレを 世界中に	ターゲット 6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物質・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。
目標 2： 飢餓を ゼロに	ターゲット 2.3 2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。



地域循環型農業
「やまと豚米らぶ」



地域循環型農業の
飼料用米生産者様



休耕田を利用した
飼料用米生産

三井住友銀行では、「SDGs推進私募債」により、本業を通じ、SDGsが達成される社会の実現に貢献をしております。

<ご参考>

1 「SDGs推進融資/私募債」について

SDGsは、企業に対して最低限取り組むべき、人権・環境・労働・腐敗防止等の観点からの責任を問う内容と、地球規模の環境・社会課題に対し、ビジネスとして解決を期待する内容が含まれています。

こうした環境の下、「SDGs推進融資/私募債」は既にSDGsに関する取組を進められているお客さまや、これからSDGs課題に取り組むことを検討されているお客さま等、幅広いお客さまを対象にSDGsの取組を応援することを目的としております。

2 SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。